

科目名 Course Name	生活支援技術Ⅳ Independent Living Skills IV						
年次	1 年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	石川 幸子						
連絡先(質問等)	福祉棟 2 階研究室、オフィスアワーは月・火・木・金の授業時間以外						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程 必修)						
関連 DP	DP2						
授業の概要と到達目標	<p>&lt;概要&gt; 「生活支援技術Ⅳ」では、身じたくや入浴・身体の清潔保持の意義について学習し、身じたくおよび身体の清潔に関するアセスメント方法や自立に向けた支援のための基本技術を習得する。さらに、利用者の状態・状況に応じた身じたくや清潔保持の援助方法、実施時の留意点について考える授業とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ①身じたくおよび身体の清潔保持の意義について説明できるようにする。 ②身じたくや入浴に関する利用者のアセスメントの視点について、説明できるようにする。 ③利用者の状態に応じた衣服着脱の方法と工夫および留意点について、説明できるようにする。 ④入浴の際の環境整備の要点および入浴に関連した用具を列挙できるようにする。 ⑤衣服着脱や入浴、清拭等の介護における留意点について説明でき、基本手順に沿って安全に援助できるようにする。</p>						
授業の方法	介護実習室や入浴実習室での演習が主である。教員がデモンストレーションを行った後、グループに分かれて演習する。演習では、利用者役と介護者役の両方を体験し、援助の際の留意点を考えながら基本技術を習得できるようにする。単に手順を覚えることに集中するのではなく、一つ一つの介護の根拠を考えながら実践していく。						
学習成果	L01	身じたくや身体の清潔保持の意義、入浴が心身に及ぼす影響等をふまえ、利用者の状態や生活状況の応じた支援の方法を選択することができる。					
	L02	利用者の自立やプライバシー等に配慮しながら、基本手順に沿った衣服着脱や清潔の援助を実施することができる。					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	レポートはコメント記入・評価後学生に返却、小テストは実技実施後の振り返り点等を記載し返却、平常試験は試験後に模範解答を示す。						
教科書/参考図書	① 教科書:最新・介護福祉士養成講座 第7巻「生活支援技術Ⅱ」・第8巻「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 ② 生活支援技術マニュアル (生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴと同じ)						
履修上の留意点やルール等	<p>●「こころとからだのしくみⅣ」と特に関連の深い科目であるため、復習して授業に臨むこと。講義・演習とも積極的に取り組み、演習時は身だしなみを整えること。自己練習をし、技術の向上に務めること。机上に携帯電話、飲み物など教材以外の物を置くことは禁止する。やむを得ず欠席する場合は、必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。</p> <p>●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。</p>						
担当教員の実務経験	<p>●実務経験(職種:介護福祉士、職歴:通算 13 年)</p> <p>●特に高齢者介護の多様な経験を、更衣や入浴介助等の技術の演習時にデモンストレーションを行い、基本動作や留意点等を体感できるよう活用する。</p>						
成績評価の方法と基準							
評価の領域	評価基準	学習成果の割合					
		L01	L02	L03	L04		
授業参加態度	教材を準備して授業に臨み、必要なことはノートにとり、わからないことは質問する。また、技術演習の際には身だしなみを整えて積極的に参加し、技術向上に向けて練習すること。	20					

レポート/作品	①入浴演習および②清拭演習の振り返りレポートを課す。S 評価のレポートは、提出期限が守られ、利用者役および介護者役の体験から、感想や学びが具体的に記述されており、援助時の留意点が列挙されていること。(各 10%)		10		
発表					
小テスト	技術の確認として、第 10 回目に衣服着脱介助の実技テストを行う。マニュアルに従って、プライバシーや根拠に基づいた技術が手順通り行えていること。		20		
試験	身じたくの意義と目的・介護技術、他職種の役割と協働、入浴・清潔保持の意義と目的、入浴・清潔保持における介護技術、他職種の役割と協働について理解ができています。		50		
その他					
<b>合計</b>			20	80	
<b>回数</b>		<b>授業計画</b>			
1	<b>授業内容</b>	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価の方法・演習時の留意点等) 身じたくの意義と目的、身じたくに関する利用者のアセスメント【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	朝起きてからの身じたくを整える一連の流れを書き出す。			
2	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助①【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	テキスト P47～P50 を読み重要箇所にアンダーラインをひく。			
3	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助② 座位での着脱介助【演習】			
	<b>事前・事後学習</b>	生活支援技術マニュアル P46、P47 を読み重要箇所にアンダーラインをひく。			
4	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助③ ベッド上臥位での着脱介助【演習】			
	<b>事前・事後学習</b>	生活支援技術マニュアル P48～P50 を読み重要箇所にアンダーラインをひく。			
5	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた衣服着脱の工夫と介助④ ベッド上臥位での浴衣着脱介助 福祉用具の活用【演習】			
	<b>事前・事後学習</b>	テキスト P64 を読み重要箇所にアンダーラインをひく。			
6	<b>授業内容</b>	身体の清潔保持の意義と目的、入浴・清潔保持に関する利用者のアセスメント【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	テキスト P104～P123 を読み重要箇所にアンダーラインをひく。			
7	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助① 入浴の介助(リフト浴、特浴)【演習】 〈小グループで演習、内容と日時は授業で指示する〉(レポート① 提出:次回)			
	<b>事前・事後学習</b>	レポート作成。			
8	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助② 全身清拭【演習】 〈小グループで演習、内容と日時は授業で指示する〉(レポート② 提出:次回)			
	<b>事前・事後学習</b>	レポート作成。			
9	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助③ 部分浴(手浴、足浴)【演習】			
	<b>事前・事後学習</b>	生活支援技術マニュアル P68～P73 を読み重要箇所にアンダーラインをひく。			
10	<b>授業内容</b>	技術の確認【実技試験】			
	<b>事前・事後学習</b>	実技試験後の自己評価表をチェックする。			
11	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助④ 口腔ケア【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	テキスト P28～P39 を読み重要箇所にアンダーラインをひく。			
12	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた整容動作の工夫と介助⑤ 口腔ケア【演習】			
	<b>事前・事後学習</b>	生活支援技術マニュアル P81～P83 を読み重要箇所にアンダーラインをひく。			
13	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助⑥ ベッド上での洗髪、ケリーパッドの作り方【演習】			
	<b>事前・事後学習</b>	生活支援技術マニュアル P78～P80 を読み重要箇所にアンダーラインをひく。			
14	<b>授業内容</b>	利用者の状態に応じた清潔保持の工夫と介助⑦ ひげやつめの手入れ等【講義】【一部演習】			
	<b>事前・事後学習</b>	テキスト P18～P28 を読み重要箇所にアンダーラインをひく。			

15	<b>授業内容</b>	身じたく、入浴・清潔保持の介護における他職種役割と協働【講義】
	<b>事前・事後学習</b>	テキスト P154 の事例を読んだ感想を箇条書きにする。